

# 北海道議会議員

# 島山みのり

## 道政だより



■島山みのり道政事務所 〒005-0006札幌市南区澄川6条4丁目2-1澄川ビル2F  
TEL: 011-813-7733 FAX: 011-813-7778

■北海道議会民主・道民連合議員会 〒060-0002札幌市中央区北2条西6丁目

URL <http://minori-hatakeyama.jp>  
Mail [minori@minori-hatakeyama.jp](mailto:minori@minori-hatakeyama.jp)



この通信の配布については、郵送・全戸配布・街頭配布等で行っています。

対談シリーズ  
×  
石橋みちひろ  
参議院議員  
に聞きました



石橋みちひろ 参議院議員

### コロナが日本の経済に与えた影響はどうですか？

**島山** 石橋さんは現在、参議院の経済産業委員長として活動されています。委員会ではどのようなことを審議するのでしょうか？

**石橋** 「主に経済産業省が所管する政策や施策、法律案についての審議を行います。国会では、貿易保険法改正案や省エネルギー法改正案の審議に加えて、新型コロナで影響を受けている事業者への支援策や、エネルギー問題、脱炭素社会の実現やデジタル化の促進などについて活発な議論が行われています。」

**島山** 石橋さんは国際労働機関（ILO）で仕事をされたこともあつ

### つながり、わが家、社会へ

3月下旬、島山みのり道議会議員の古巣であるNTT労働組合で、自治体議員と石橋みちひろさんとの懇談会がありました。少しの時間をいただいて、長引くコロナ禍の影響について伺いました。

「働く人のことをよくお分かりになつています。経済産業を支えているのは多くの中小企業ですから、双方から広い視野で考えることができそうですね。道議会でも、先日まで令和4年度の予算審議をしていました。今回も、新型コロナウィルス感染症対策については、多くの時間をかけました」

**石橋** もう2年以上に及んでいる今回のコロナ禍では、今の日本社会や経済の脆弱性が浮き彫りになったと思います。社会的に弱い立場に置かれている市民や事業者、生産者が最も深刻な影響を受けているのに、そういった方々になかなか公的な支援が届かない、届けられないという問題です。これは、20年以上にわたって続けられてきた新自由主義の下で「小さな政府（公助の縮小）」や「自助の強化」が進められ、政治が「人」を大事にしなくなつてしまつた結果です。この失政を根本的に解決しなければ、今後さらに進んで行く高齢化・少子化の中で、国民の命や暮らし、そして雇用の安心を守ることは出来ません。貧困や格差、差別や排除をなくし、誰もが安心して暮らしていける

社会を取り戻すためには、政治の転換が必要です。

### Withコロナをどう考えますか？

**島山** 「同じ目線に立つて考えることは大切です。コロナ禍、日常生活が一変した方も多くいます。北海道でも様々な支援策を講じてきましたが、それを必要とする方に届けるのはなかなか大変なことだと感じます」



石橋議員に質問する島山みのり道議

**石橋** 「基本的に感染を広げないという意味で、これからも引き続きコロナウィルス感染症に万全の対策が必要ですね。それに伴って影響を受けている方々への継続的な支援も必要で

### 【いあいあい】

新年度を迎え、新しい環境に身を置かれた方もいらつしやると思います。新型コロナウィルスの国内感染が確認されてから2年が過ぎ、外出時は人との距離を保つたり、マスクが欠かせない生活が当たり前となりました。社会の慣習はこのように変わつていくものなのかと実感します。

ワクチン接種により、新型コロナウィルス感染の重症化や亡くなる方も減りました。ただ、陽性となつた後遺症の影響は計り知れませんので、やはり毎日の予防は大切です。

2月から3月末まで、島山事務所には議員インターンシップ



として3名の大学生が研修に來ていました。インターンシッププログラムを提供しているNPO法人ドットジェイピーは、若い世代の投票率の向上を目標に、毎年春期（2月～3月）と夏期（8月～9月）の2回このプログラムを行つており、島山事務所では今回初めての受け入れとなりました。

インターン生にはいろいろなことに触れてほしいと、エネルギー関連や通信事業など研修視察を考えていましたが、受け入れ直前の1月27日からまん延防止等重点措置が開始となり、それぞれ中止やオンラインになるなど、思うように活動はできませんでした。それでもなんとか、道議会での質問準備段階での打合せや委員会などの傍聴、インターン生を受け入れている他の議員と合同で研修会や施設の視察なども行いました。今回のインターン生は1・2年生で、大学生になつてからの講義は全てオンライン、1度も大学構内で講義を受けたことがないとのこと。コロナ禍の影響が色濃く影を落としている世代だということを再認識しました。



道議会副議長室で市橋副議長にご挨拶するインターンシップ生

### お悩み相談窓口



子育てや介護などの家族の悩み、人間関係や働きやすい環境などでお悩み・お困り事がありましたら、お気軽にご相談ください。

[minori@minori-hatakeyama.jp](mailto:minori@minori-hatakeyama.jp)

### 石橋みちひろプロフィール

■出身地：島根県安来市生まれ ■1992年 NTT労組中央本部(国際部)  
■2001年～2006年 国際労働機関(ILO)勤務(在・イタリア) 東南アジア及び太平洋諸島地域担当(在・フィリピン) ■1987年 日本電信電話株式会社入社 ■2009年 NTT労働組合特別中央執行委員/情報労連中央本部 特別執行委員 ■2010年 第22回参院選(全国比例区)初当選 ■2016年 第24回参院選2期目当選 ■現在：経済産業委員会(委員長) 行政監視委員会

### 島山みのりプロフィール(南区)

■出身地：北海道網走市 ■1987年 日本電信電話株式会社入社  
■2019年4月 道議会議員2期目 総合政策委員会/委員  
人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会 筆頭理事

す。それと同時に、コロナ後の社会を見据えて、国民の安心・安全を守るための基礎的なサービスや担い手の確保、そのための雇用の安定化や処遇の改善を政治の決断で行つていかなければなりません。また、国際的な競争力の低下(今や世界で31位)や、ICT、デジタル化の遅れ(世界デジタルランキングも28位にまで低下)に代表される日本経済の課題についても、政治の責務として、人への投資を中心にした、思い切つた改善策を講じていかなければなりません」

**谷本 陽香**

私たちは2月から3月までの2ヶ月間、富山議員のもとでインタビューをさせていただきました。活動内容としては、様々な分野のセミナーや講演会に参加したり、施設や道議会庁舎の見学、議会の傍聴などがありました。どれも興味深いもので、新しく知ることや学ぶことが多くあり、勉強になりました。

特に、道議会庁舎の見学や議会の傍聴は普段の自分ならきつとできないことだったので、とてもいい経験になったと思います。

これらの活動を通じて多くの方と関わり、色々なものを見たり聞いたりすることで、知識だけではなく、考え方や物事の捉え方が以前より広がりました。インタビューを通じて多くのことを吸収できたように感じます。

この2ヶ月間、気付くとあつという間に過ぎていました！楽しく、とても充実した素敵なインターンになりました！貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました！

富山議員とインターンのメンバーと過ごした二か月間

●●● インタビュの学生さんが議員活動を体験。 ●●●

**寺崎 百花**

富山議員のもとで二か月のあいだインターンさせて頂いた寺崎です。インタビューの序盤はこういった機会がなければ関わることのない方々とあひさつする際に、とても緊張しました。しかし富山議員が最初に紹介や、話やすい空気を作ってくれたので、名刺交換や挨拶が段々上手にできるようになりました。

またインターンを通して特に印象に残っている活動というのがあります。それは皆川弁護士とお話させていただいたことです。皆川弁護士には労働に関することや、同性同士の結婚など幅広いお話を聞かせて頂きました。皆川弁護士のお話がなぜ深く印象に残っているかというと、同性同士の結婚に関するお話は、特に自分が聞いてみたいと思っていたのですが、いざ聞いてみると色々な問題が孕んでいる、一筋縄ではいかないということを知りました。このお話を聞いてから、もっと社会の動向をみて、勉強したいと思いました。

二か月間はあつという間に終わってしまいましたが、とても素敵な経験をさせて頂きました！

**仲上月 菜**

正直、「議員インタビューに参加しない？」という中学から付き合っている友達からの誘いを最初は詐欺か何かだと思っていました。そんな詐欺と思った話にすぐ乗ったのは私自身ですが、結果として参加して正解だったと言います。

富山みのり議員のもとで様々なことを学びました。信用していい大人はたくさんいるということ、議員は悪い人ではなく私たちの未来のために頑張っているということ、人との繋がり大切だということ、人生は予想外のことが起きても案外なんとかなるといふこと。今回参加しなければ一生会うことや話すことがない方たちとお話できたのも楽しかったです。そしてなにより富山みのり議員と出会えたことが一番の喜びです。私たちのために貴重な機会を用意していただいたことは感謝してもきれません。この二か月間は本当にあつという間で、きっと私はこのインタビューのことを色んな人に自慢しながら生きていくのだと思います。

# 第1回定例道議会

2月25日から3月24日の会期で令和4年第1回定例道議会が行われ、2022年度一般会計予算案「ロシアによるウクライナへの軍事侵略に対する決議」などを可決して閉会しました。

## 主な審議経過について

開会日には、新年度予算案や条例改正、補正予算の提案があり、冒頭先議を行いました。会派からは、国の補正予算に関する認識、「コロナ禍における学びの保障、北海道GOTOトラベル事業費などについて質疑を行いました。

代表質問では知事の政治姿勢として、道政運営の自己評価と残り1年となった任期期間の重点施策を質しました。

知事は感染症対策と社会経済活動の両立に全力で取り組んできたことと評価。達成できなかった点にはいっさい触れることはなく、誠実に欠けたる答弁でした。また、「道民の暮らしと命」を守る取組に万全を期すと述べたものの、具体的な施策には言及しませんでした。

## パートナーシップ制度を導入するまちが増えました



2022年4月1日より、「北見市パートナーシップ宣誓制度」がスタートしました。北見市では、誰もが自分らしく暮らし、多様性を認め合う社会の実現を目指しています。道内では、2017年導入の札幌市、今年3月の江別市に次いで3番目です。

この制度は、戸籍上は同性であるカップルに対して、自治体が婚姻と同等であることを承認する制度の

ことで、パートナーとして公営住宅への入居が認められたり、病院で家族として扱ってもらえたりします。また、法律婚と同等の福利厚生を提供する企業も増えています。

## 当面する課題と対応

令和4年(2022年)度予算  
組替え動議について

鈴木知事は任期残り1年、疲弊した北海道経済をどのように立て直すのか気概が伝わらない予算編成となつていきます。

知事の看板政策である「ゼロカーボン北海道」や「デジタル化」については、新型コロナウイルス感染症の長期化を理由に成果が表れる時期が見通せません。度重なる休業や時短要請で、廃業や倒産、解雇の危機に直面する飲食業や関連企業など厳しい状況に置かれる方に光を当て、希望を持ってもらうことが知事の責務です。子育て支援や持続可能な社会の実現など、先行投資の必要な予算は増額し、緊急性の乏しい事業や効率性の低い予算については大胆に見直しをはかり、メリハリの利いた予算に組み替えるべきだと民主・道民連合は動議を提案しました。否決されました。

会派としては、「ゼロカーボン北海道」や「デジタル化」に加えて「エネルギー政策」「人権政策」など、知事がはつきりとした姿勢を示さない政策等に対し、誠実で真摯な議論に付すべきと考えています。

# 富山みのり 活動のひとこま



2月14日 インターン生と一緒に皆川洋美弁護士から自身が携わってきた社会問題のお話を伺う



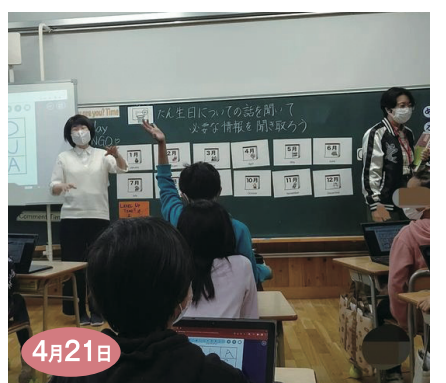
3月24日 道議会食堂で令和3年度北海道給食コンクール最優秀賞の給食を試食



3月27日 三越前で自治体議員とウクライナ支援の募金活動



4月18日 コープさっぽろでは赤ちゃんに必要なものが詰まったチャイルドボックスをプレゼント



4月21日 高知市の義務教育学校 土佐山学舎を視察



4月29日 南区軟式野球連盟の開会式に参加